



愛川ふれあいの村 2月の風景

平成30年2月 自然のたより

立春を迎える直前の大雪からはじまった2月。雪解けのころからは草木のみどりが目立ち始め、アオゲラやアカゲラの鳴き声とドラミングの音が響きます。落葉樹の葉痕のそばにある芽はふくらんで今が見ごろです。雪景色から春の形相へ移っていく村を感じてください。



蟠梅



ネクタイしめてキリッ



葉痕（万歳サンショウ）



白梅



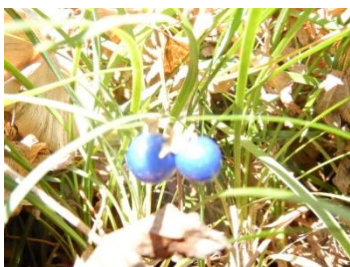
会話中のトビ



シロハラ



どこへ行くのかな



ジャノヒゲ



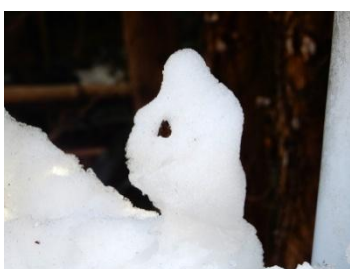
松の雌花・雄花



誰かいますか



アオゲラ



何に見えるかな



オオイヌノフグリ



寄り添うカシラダカ



紅梅

◆空を漂うレンズ雲◆

～このあとの天気はどうなるの？～

通勤中、富士山の上に見慣れない雲ひとつ。波打った形の“レンズ雲”（きれいなものはUFOのような形になります）でした。凸レンズ型であることからレンズ雲と名付けられています。レンズ雲は強い風が山を越える時に発生し、レンズのような形が崩れると数時間後に雨が降る「雨を予告する雲」と呼ばれています。まさにその通りで数時間後、愛川ふれあいの村ではポツリポツリと雨が降ってきました。

天気予報などがなかった時代、目に映る自然現象から天気を予測していたといいます。例えば、「カラスが乱れ舞うのは雨の兆し」や「クモが巣を張り出すと雨上がる」など今日にも伝わっている言葉は多々あります。自然に目を向けて、これからの天気を予測してみるのも楽しいかもしれませんね。（塚原）



レンズ雲

上空に強風が吹く証。形が崩れると雨が近い。



飛行機雲

雲がすぐに消えると、晴れ。長く残っていると天気は下り坂。



巻雲（かぎ状）

かぎ状の巻雲は、ザアザア雨の前兆。低気圧や前線の前ぶれ。

▼植物には寒さが必要▼

『休眠打破』という言葉をご存知でしょうか。桜の花芽は、夏の時期に形成され、それ以降「休眠」状態に入ります。休眠した花芽は、一定期間、低温にさらされることで眠りから覚めて開花に向けて準備をします。このことを『休眠打破』と言います。その後、春に気温が上昇するに伴って、花芽は「生成」され、「開花」していきます。日本の桜は、四季による寒暖差があるからこそ、キレイに咲きます。今年は例年以上の冷え込みだったので、春に桜の花がどのように咲くか楽しみです。（高橋）



★和製ハーブ「ヨモギ」★

春になると、野原や土手などいたるところで目にするヨモギ。昔から食用・薬用として重宝されてきました。まさに和製ハーブです。

ヨモギには、食物繊維・ビタミン・ミネラル・カロテン・クロロフィルなど栄養素が豊富に含まれ、便秘・貧血・アレルギー改善、がん抑制効果など病気の予防にも役立ちます。

草餅や草団子の他、ヨモギうどん、てんぷら、炊き込みごはんなど様々な料理でおいしく食べられます。若芽が出始めるこの時期、ヨモギ料理を食べて、体づくりと春を感じてみませんか。（梅本）



◎三月の注目ポイント◎
早春、白いユリワサビの花が咲き始める頃に見られるスミシロがアオイスミシロの花です。葉は円心形で葉先は丸く、ちょうと徳川家の家紋のフタバアオイの葉に似ていることからこの名があると言われています。花の後に地面を這うような茎を出して新しい苗を作ります。
春風に吹かれ細い茎が風に揺れていたが、その風が止みやわらかな日差しが届くと清楚な白っぽい淡紫色のアオイスミシロは美しく輝きます。飛んできた落ち葉の上のできた花の影を見ると、大工さんの使っていた墨入れにその形が似ていてスミシロの名の由来を思い出します。
早春の一時に咲くスミシロやカタクリ、イチリンソウなどはスプリングエフェメラル（春のはかない命・春の妖精）と呼ばれています。春の花咲く、ふれあいの村の山野草園にぜひお越しください。（吉田）

発行者：神奈川県立愛川ふれあいの村

TEL：046-281-1611 HP：<http://fureai-aikawa.com/>

写真：吉田文雄・石川雄馬

編集：吉田文雄・石川雄馬・渡部秋人



愛川ふれあいの村で、検索★